

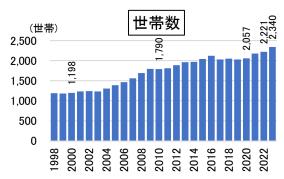
# 名駅南の現状と課題

# |7-1 人口・世帯数

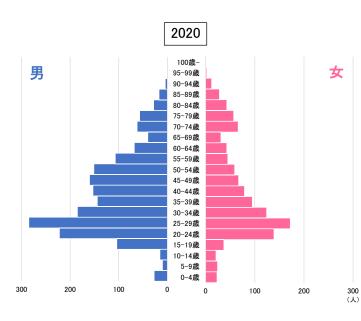
名古屋市の人口が横ばい傾向にある中、名駅南地区では、人口・世帯数とも増加が続いています。名駅南地区の年齢別人口をみると、20代、30代の比率が高く、また、世帯人員別世帯数の推移をみると、単身世帯が増加しています。

新しい住民が増加傾向にあり、今後の若いファミリー世帯の増加を見据えた教育施設や生活利便施設等の充実が課題となります。一方で、新しい住民の地域活動への参加が少なく、一部の町内会では担い手不足により地域活動の維持が厳しい状況にあるといわれており、その対応も課題となっています。





名駅南地区の人口・世帯数の推移



3人世帯, 4.4%

2人世帯
10.9%

1人世帯, 80.8%

2人世帯
8.9%

1人世帯, 85.2%

4人世帯, 2.7%

5人世帯, 0.8%

(資料:2020年国勢調査を基に作成)

(資料:2010年、2020年国勢調査を基に作成)

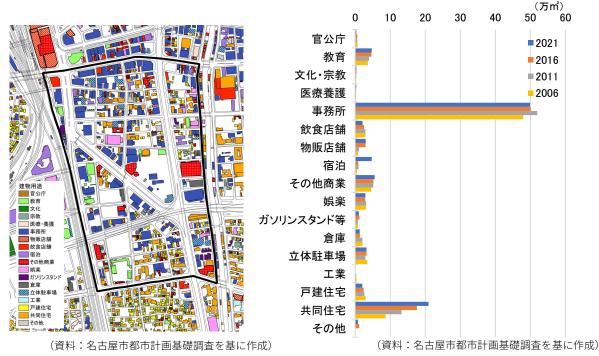
名駅南地区の男女別・年齢別人口構成 (2020年) 名駅南地区の世帯人員別世帯数の変化 (2010 年→2020 年)

## 7-2 土地利用・都市機能

#### (1) 建物用途、延床面積の推移

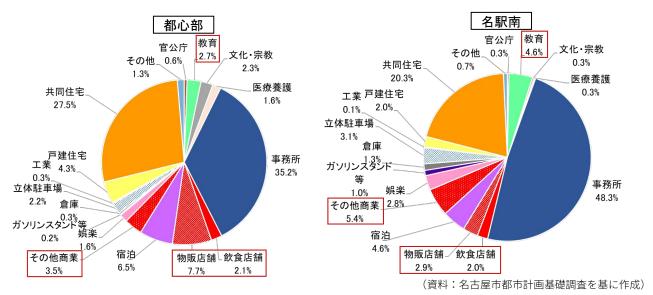
名駅南地区の建物主要用途現況をみると、広小路通や名駅通等の沿道を中心にまとまった規模の事務所建物が立地するとともに、北エリア内部や南エリアでは共同住宅が多く立地し、教育施設やその他商業施設も地区全体に立地していますが、飲食店舗は広小路通等の一部に限られます。また、建物主要用途別延床面積の推移をみると、大型分譲マンション等の共同住宅が増加傾向にあり、近年ではホテルの立地も進んでいます。

さらに、名駅南地区の建物主要用途別延床面積構成比を都心部平均と比較すると、地区の飲食・物販店舗等の商業施設の割合は約10%であり、都心部平均(約13%)と比べ低い水準にあり、賑わいの創出などが課題といえます。



(資料:名古屋市都市計画基礎調査を基に作成) 名駅南地区の建物主要用途別現況図(2021年)

名駅南地区の建物主要用途別延床面積の推移



都心部と名駅南地区との建物主要用途別延床面積構成比の比較(2021年)

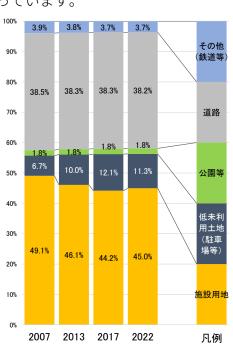
#### (2) 土地利用の推移・現況、使用容積率

名駅南地区の土地利用をみると、駐車場などの低未利用土地の割合が約11%であり、都心部平均(約9%)よりも高く、さらに、使用容積率をみると、広小路通や名駅通の沿道では、使用容積率が比較的高い街区が多いものの、その他の街区では十分に土地が活用されていない状況にあり、民有地の有効活用・高度利用が課題となっています。

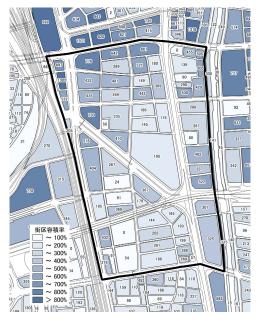
また、土地利用のうち、道路率は約38%であり、都心部平均(約33%)と比べて高い水準にあり、道路空間の有効活用も課題となっています。



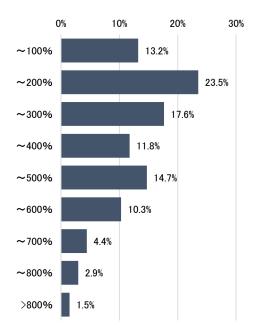
(資料:名古屋市都市計画基礎調査を基に作成) 名駅南地区の土地利用現況図 (2022年)



(資料: 名古屋市都市計画基礎調査を基に作成) 名駅南地区の土地利用の推移



(資料:名古屋市都市計画基礎調査を基に作成)



(資料:名古屋市都市計画基礎調査を基に作成)

名駅南地区の街区別使用容積率図(2021年) 名駅南地区の使用容積率別街区数割合(2021年)

#### (3) 緑被率

名駅南地区の緑被率は約5.7%で、名古屋市全体(21.5%)や都心部平均(7.6%)と 比較して低く、六反公園のまとまった緑は、地区の貴重な緑地空間となっています。



都心部の緑被率図(2020年)

#### (4) 都市公園の状況

名駅南地区には4つの公園があります。近隣公園である六反公園は、住居系土地利用の多い名駅南地区の南エリアに位置し、地区最大の公園として、一時避難場所となっており、公園愛護会も活動中です。また、街区公園である祢宜公園は、名古屋駅前に近接し、名駅南地区の北エリアの貴重な空間として、公園愛護会が活動中ですが、喫煙等の特定利用が多く、住民やワーカーが憩える公園空間等への転換が課題です。

種別	名称	面積	開園	備考
近隣公園	六反公園	10,109 m²	1949 年	一時避難場所
街区公園	祢宜公園	約 300 ㎡	1983年	_
街区公園	水主町公園	1,292 m²	1951年	_
街区公園	水主町東公園	約 300 ㎡	1983年	_

名駅南地区の都市公園の状況

#### (5) 公開空地の現況

名駅南地区には2か所の公開空地があります。ひとつは、名古屋三井ビルディング本館・新館の敷地内にあり、名駅南地区の北エリアの笹島交差点に面した角地にサンクンガーデンによる公開空地を設置し、歩道上のポケットパークとともに良好な都市空間を形成しています。もうひとつは、名駅南地区の中央エリアに位置し、(仮称)名駅南通(南側区間)と下広井町線との交差点に面した角地に広場状の公開空地が設置され、今後の有効活用が期待されます。

名駅南地区の公開空地の状況

名称	敷地面積	建築面積	建物規模	公開空地面積
名古屋三井ビルディング本館・新館	5,227 m²	3,090 m²	地上18階・地下2階	2,245 m²
中部電力下広井ビル (名駅南ビル)	3,787 m²	1,973 m²	地上 12 階・地下 5 階	930 m²





名古屋三井ビルディング本館・新館



中部電力下広井ビル (名駅南ビル)

※1 都市計画制度や総合設計制度により整備される空間のうち、市街地の環境の整備改善に資する日常一般に開放された空間

名駅南地区付近の都市公園及び公開空地等を含む敷地の立地

## 備考:都心部の範囲

当方針における都心部の範囲は下図の通りとし、名駅南地区との比較は下表の通りとなります。



都心部と名駅南地区との比較

項目	都心部	名駅南
物販・飲食店などの 商業施設の 建物主要用途別 延床面積構成比	約 13%	約 10%
道路率	約 33%	約 38%
低未利用土地の割合	約 9%	約 11%
緑被率	約 7.6%	約 5.7%

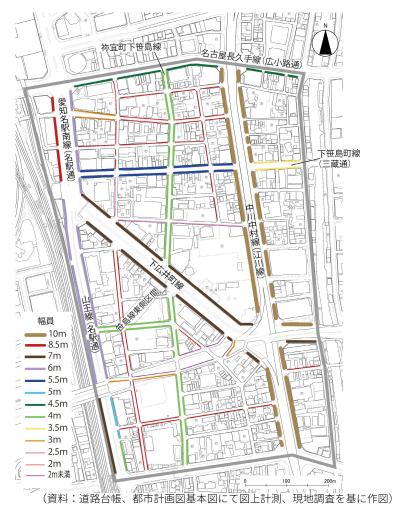
#### (6) 主要道路・歩道幅員

名駅南地区は、都心部平均と比べ道路率が高い水準にあり、広幅員道路(江川線、名駅通、下広井町線)によって地区内の街区が囲まれ、横断箇所が限定されているため、地区内及び地区外との移動がしづらい一方で、地区内には歩道の充実した道路も存在しています。

特に地区の南北を貫く、祢宜町下笹島線((仮称)名駅南通)や、地区の東西を貫く 三蔵通は、自動車交通量が比較的少なく、道路空間に余裕があることから、沿道のまち 並みと一体となった賑わい創出が期待されています。

名駅南地区の主な道路の状況

種類	路線名	幅員・車線	歩道幅員
市道	祢宜町下笹島線	15.0m・1 車線	4.0m
市道	下笹島町線(三蔵通)	20.0m・2 車線	5.5m
市道	下広井町線	50.0m・10 車線	7.0m
県道	中川中村線(江川線)	50.0m・6 車線	10.0m
市道	笹島線(東側区間) ※整備中	30.0m・4 車線	4.3m
主要地方道	愛知名駅南線(名駅通) ※下広井町交差点以北	50.0m・9 車線	8.6m(西) 6.3m(東)
主要地方道	山王線(名駅通) ※下広井町交差点以南	32.5m・6 車線	6.0m
主要地方道	名古屋長久手線(広小路通)	30.0m・4 車線	4.5m



名駅南地区の主な道路の歩道幅員の状況(2023年)

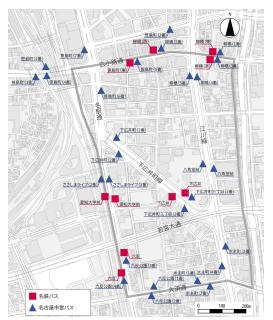
## 7-3 交通

名駅南地区を含めた都心部では、地下鉄等の鉄道の他に市バスや名鉄バスの路線網が充実しています。この都心部の中で名駅南地区をみると、名古屋駅とのアクセス距離が相対的に遠いことから、特に名駅地区との往来において、アクセスの向上が課題となっています。

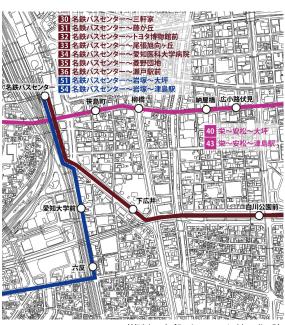


(出典:名古屋市交通局 HP)

名駅南地区を含む都心部エリアの地下鉄・市バス路線図 (2023 年)



(資料:令和6年2月時点の市バス HP、名鉄バス HP を基に作成)名駅南地区のバス停位置図(2023年)

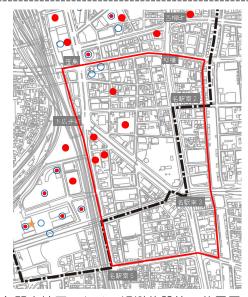


(資料: 名鉄バス HP を基に作成) 名駅南地区を通る名鉄バス路線図 (2023 年)

## 7-4 安心・安全

名駅南地区では、「あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震」が起きた場合、震度6弱もしくは6強の地震が想定される中、地区最大の六反公園が一時避難場所に位置づけられるとともに、名駅南地区の大部分が、名古屋駅周辺地区都市再生安全確保計画の対象範囲となっています。

しかしながら、大規模地震時の滞在者・来訪者の一時退避施設や、帰宅困難来訪者を受け入れる退避施設は不足している状況にあり、また、今後増加傾向にある地区住民の安心・安全の確保のためにも、大規模災害に備えた防災性能・災害対応力の強化などが課題となっています。



名駅南地区における退避施設等の位置図

第3次名古屋駅周辺地区 都市再生安全確保計画(改訂版) (令和5年7月一部変更)

## 凡例

「…」安全確保計画の対象範囲

■ まちづくり方針の対象範囲

退避施設:5か所

○ 一時退避施設:2か所

● 退避施設・一時退避施設

情報伝達施設



